

# 婦人会報

令和五年  
立教186年 12月 2023年



天理教婦人会旭日支部

通巻534号

# 祝いのごとば

本日は、天理教婦人会旭日支部第89回総会を開催され、誠におめでとうございます。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症によって世界中の人たちが大きな影響を受ける中、教祖の教えを頼りに親神様の思召を求めながら一手一つにお通りくださいましたこと、心よりお礼申し上げます。

さて、婦人会では

「ひながたをたどり 陽気ぐらしの台となりましょう」

との成人目標のもと、今年の活動方針を

教祖140年祭に向かって育つ努力、育てる丹精に徹しよう

- ・元なる思召を伝え広めよう
  - ・老いも若きもおたすけの喜びを味わおう
- といたしました。

元なる思召とは、「人間が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたい」と人間を創られた親神様の思召です。そのために親神様は、私たちに体をお貸しくださり、絶え間なくすべてのことをご守護くださっています。そして陽気ぐらしを味わうために、自由に使える心をお与えくださっています。

4月19日に開催した第105回総会の席上、真柱様は、

「教祖の年祭を目指して仕切って勤めるといふ時は、年祭という一つの仕切りを設けて、改めて

心の成人を意識し直し、そのための勤めに拍車をかけるのであります。」  
とお話しくださいました。そして婦人会長様から、

「教祖のひながたを目標に教えの実践を積み重ねた先に、心の成人があると思うのでございます。」

とお聞かせいただきました。

教祖は、ようきぐらしができるよう人間皆をたすけてやりたいと教えを伝え、人々をお育てになりました。そのひながたの中で、教祖はどんな心の使い方をなさったのか。人を育てる時にはどんな言葉や態度で導かれたのか。私たちは、日々起こってくるさまざまなことに向き合う時、その教祖のお姿に考え方の基を求め、ひながたを辿らせていただきたいと思います。

経験豊かな年配者から年若い女子青年まで、年齢や立場、環境が違う婦人会員だからこそ、さまざまな方と出会うことができます。それぞれが人に寄り添い、をやの思いをお伝えすることができず。教祖140年祭への三年千日、教祖にお喜びいただける成人を目指して、自分にできることを一步一步積み重ねながら、この教えを自信を持って一人でも多くの方にお伝えし、育ち育てる道に共に歩んでくださることをお願いして、祝いのことばとさせていただきます。

立教百八十六年十一月五日

天理教婦人会本部

(原文まま)

# 婦人会旭日支部第89回総会

去る11月5日（日）、秋の暖かなお天気のもと、婦人会旭日支部第89回総会を、大勢の会員の皆様にご参加頂き、賑やかに開催することができました。

当日は、教祖祭をつとめた後、一つ一つに心を揃え、勇んでおつとめまなびをさせて頂きました。

式典後は、記念講演があり、天理教佐山分教会長 島田尚弥先生より「素直が一番」というテーマでお話しを聞かせて頂きました。

その後昼食は、4年ぶりに食堂にて会食となり、笑顔で会話を花を咲かせる姿が見られました。

参加者には、婦人会員有志が手作りで準備して下さった素敵なお土産をお持ち帰り頂きました。

参加者は大人249名、子供20名でした。



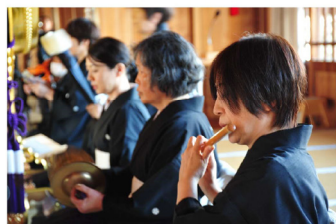
教祖祭



大教会長様ご挨拶



支部長様のお手に合わせて礼拝



一手一つにおつとめをさせて頂きます



誓いの言葉  
増田委員部・田中洋子



プログラム

- ・教祖祭
- ・おつとめまなび
- ・式典
  - 一、開会の辞
  - 一、会務報告
  - 一、支部長挨拶
  - 一、大教会長様ご祝辞
  - 一、誓いの言葉
  - 一、婦人会歌斉唱
  - 一、閉会の辞
- ・記念講演「素直が一番」
  - 講師 天理教佐山分教会長  
島田 尚弥先生
- ・式典後、昼食 手作りお土産抽選



記念講演 島田尚弥先生



親子ルームや各会場でも真剣に聞かせて頂きました。



前支部長様・前委員部長さん



食堂で会食♪



手作りお土産抽選♪



たくさんの方の  
ひのきしん、  
ありがとうございました。





## 婦人会旭日支部第八十九回総会

### 「素直が一番」(要旨)

天理教佐山分教会長

大阪教区布教部

島田 尚弥 先生

大阪府の交野市から参りました佐山分教会の島田尚弥と申します。私は、昭和二十六年に京都市伏見区の佐山分教会の長男として生まれました。現在七十二歳です。十七歳で別席を運び、勉強もクラブ活動も頑張る普通の子でした。両親はきつと、私に教会を継いでほしいと思っていたはずであります。ところが、大学生の頃から、教会はできたら継ぎたくないという風に考えるようになりまして、公務員試験を受けて、大阪府庁に就職いたしました。そして、大阪市内の独身寮に入寮し、見事、教会からの脱出に成功したわけでありました。これが親不孝の始まりでした。その後、三十二歳で妻と結婚。二人の子供を授かって、公務員の安月給で一生懸命育て

ました。お道とはつかず離れずの距離を保ったまま暮らしてきましたが、平成二十年、あと四年で定年退職というところで、あの橋下徹大阪府知事が登場してきたわけです。私は農林関係の出先事務所の課長級の所長をしておりましたが、あるとき、橋下知事から環境農林水産部長に抜擢されたのです。職場の同僚、仲間からも嫉妬や好奇心の目で見られるわ、それこそ、針のむしろでした。

私がそんな公務員生活を送っている頃、実家の教会の方はどうなっていたかと言いますと、平成六年に私の母が出直し、平成十七年に父が出直した後、借地借家を追い出されまして、会長不在というところで、事情教会になっておりました。申し訳ないなという気持ちは持つてはいまし

たが、それでも、定年が近づいてきて、再就職に関する役所内部の希望調査では、躊躇しながらも、再就職を希望しました。なにせ部長になると、条件がぐつぐつといところ、再就職できるんですよ。いわゆる天下り。またその頃、市長選挙に立候補してもらえないかという、地元の有力者から立て続けに打診がございましたが、妻の大反対にあい、やむなく断念いたしました。

### 【節目にあつて迷う】

そんなこんなで、いよいよ定年まで残り一年を切った頃、結婚以来ずっと、頭の片隅で感じてた霧みたいなのがだんだん、強くなってまいりまして、それは、おじいさんの代から百年近く信仰してきた

のに、私の代で信仰が終わってしまう。本当にそれで良いのかということ。毎日、自問自答しておりました。その時、知人が「島田さん、三日講習っていうのがあから、一回受講してみたら」と教えてくれましたので、早速、退職直前の、平成二十三年の六月に一回目を受講いたしました。十七歳の別席以来、何十年ぶりかでお道の教えを基本から聞かせていただき、今までの自分がいかに親不孝をしていたかということに気づいて、後悔と反省で、恥ずかしながら涙をポロポロ流しました。ただ、いくら涙を流したからといって、別に教会を継ごうと決心したわけではなかったのです。

## 【さんげの涙】

しかし、受講してから一ヶ月後の七月半ば。妻から暗い表情で乳がんが見つかったと神妙に告白されました。ステージ3でした。頭をがんと殴られたような。もう

すごいショックでした。次の瞬間、しまった、これはいかん、神様、すみません。教会を継がせてもらいます。どうか妻を助けてやってください。神様に向かって必死に心の中で叫んでました。そうやって教会を継ぐと決心したら、長年の、心の片隅のどこかにあつたモヤモヤが嘘のように鮮やかに、さっと晴れまして、もう別世界を感じました。

手術の結果、妻の乳がんは快癒し、本部にお礼の参拝をさせていただいた時のことです。参拝を終えて、総合案内所の前を通り過ぎようとした時、目の前に佐山分教会と書いた提灯が吊してあつた。もう鳥肌立ちました。よう決心してくれたな、という教祖の優しい声が聞こえたように感じ、もう涙が止まりません。人目もはばからずに、その場に立ち尽くして、十五分くらいワンワン泣きました。私にとっでは人生で初めて親神様、教祖に出会えた瞬間でした。

また、教会を継ぐ決心をした私に大教会の会長ご夫妻をはじめ、多くの方々が島田さん、待ってたで、と涙流さんばかりに喜んでくださり、素直になるとこんなに周りの人達が喜んで下さり、ご守護頂けるのかと、素直ということが信仰する上での大前提であると私はこの時確信したのであります。

## 【素直が大事】

さんげの涙から再出発した私の信仰。まずは教理やお手振りを必死に学びました。それと同時に、教えられたこと、学んだことをアホになつて素直に実行するという努力をいたしました。教祖はアホになれ。道に学問はいらんとおっしゃってるんです。ですから、人間思案を捨てて、教祖の思いに素直に添いきる努力をするのみであります。

ですが、私が信仰をする上で一番最初に出くわした大きな難関は、この素直に





なる、アホになるということでした。希望の大学に入って、公務員になって、行政マンとして長年プライド持って仕事してきましたから、埃の塊みたいなもんですよ、私自身が。ですので、当初、布教活動やにおいがけが大の苦手でした。なにしろ高慢で頭が高かったですから。ですけど、大

阪教区の布教部に所属していたら、そんな甘いことは言っていられません。なにせ、天理教史上、こかん様が初めて神名流しをされた道の玄関だと自負している大阪教区ですから、布教の猛者ゴロゴロおるんです。

布教部に入つて最初の年末の懇親会のことでした、鶴橋まで交通量の多い道、約一キロの道を一列になって歩きながら拡声器で講演しながら歩くんですね。歩行講演。そんなことするなんて聞いておらず、内心悪夢だと思いましたが、今更逃げられません。

意を決して拡声器を握った時、はたと気

づきました。アホになって楽しんだらええんや。そう思い、素直に親神様にもたれたら、不思議なぐらい言葉が次々出てきて、だんだん楽しくなりましてね。宴会場につくまで、気づいたらほぼ私一人で講演をしておりました。これは自信がつかましたね。

これは十年前のあるエピソードですが、いつもの様に駅前広場でゴミ拾いをしておりますと、大阪維新の会所属の府議会議員が演説しておりました。親しみを感じたので、もし今度、橋下さんに会われたら、部下だった島田はすぐそこで、天理教の教会長をしているとお伝えくださいと、お声がけしました。実はこの二年後に、この府議会議員、あるスキャンダルがマスコミに報道され、大阪維新の会を除名になり、議員も辞職し、数年間謹慎されました。その時、陽気ぐらし講座を案内したら、毎回聞きに来られた。宗教と政治は関係ないよ。票は当てにしたらだめですよ

と、釘はさしときましたが。彼はその後、市議会議員に立候補しまして、ダントツで当選。昨年九月には市長選挙に立候補して、今は枚方の市長であります。今振り返ると、駅前で出会った時の思い切った一声つて大事だなんて思います。

また別のエピソードですが、私のサラリーマン時代に仕事でつながりのあった大阪府の外郭団体に勤務する五十代の女性が、私から毎年送られてくる年賀状を頼りに私に電話してきまして、身の上話を聞きますと、高校一年と中学一年の二人の娘を抱えながら、夫の暴力で身の危険を感じ、血圧も高く、彼女の事態が大変深刻やということを知りました。これはなんとか助かつてもらいたいと別席を運んでもらいました。用木となられた彼女は率先してひながたを学び、実践したことで身上も事情もすつきりご守護ただかれました。血圧は私と再会した当時二百十だったのが、今や薬も飲まず百三十位に



下がったそうです。

## 【心の収め方ひとつで】



次に私の目標をお話しします。それは、三代真柱様がお説き下さった教会内容の充実であります。そのために三代真柱様は三つの使命をお解きくださっておりま。一つ目は、親神様の思召を伝え、悩み苦しむ人々を助け、自分たちの信じるところの道を広めるということ。これ、言うまでもなくにおいがけ、おたすけですね。二つ目は、教祖の教えて下さったおつとめを、通じて、それぞれの魂の切り替えを図り、世の中の治まりを願う。これはおつとめをすることですね。

三つ目は陽気ぐらしの土地とところにおける手本となることでありませす。それは、においがけとおつとめを私たちが一生懸命つとめた後に、親神様の御守護によって見せていただける、いわば結果と言うべきかもしれません。

ここに非常に重要であります。順序があるんです。順序一つが天の理と教えていただきます。

次に私の座右の銘。私の大事にしている初心について説明させて頂きます。それはたんのうの心でひのきしん。これが最高。三代真柱様は、「たんのうさえできるならば、教祖のひながたの半分、ひながたの精神の半分は生かされたといつても過言ではない」とおっしゃっています。

たんのうできるようになつたら、ひながたの五割打者やおつしやつてるんですよ。大谷選手でも手が届かん世界ですよ。「水を飲めば水の味がする」これ、たんのうの実例の一番です。全ては自分の心の持ち方、心の収め方一つにかかるといふことなんです。

## 【初心忘れたらあかんよ】



話は変わりました、ここで親神様が私に見せて下さったいたずらをご紹介させて

頂きます。教養掛を仰せつかり、おぢばで過ごしていた四月三日 月曜日朝のこと、本部神殿で参拝後、中庭を歩き出しましたところ、後ろから敷島大教会のハッピを着た二十人ぐらいの修養科生さん達が私の横を歩いておられました。そちらの方をちらつと見ると、その中に黒人女性が二人並んで歩いておられるのが目に留まりました。私、あまり物おじしない性格なので、手前の大柄な女性の方にどこから来ましたか？ と聞くと、ケニアです。と明るく答えてくれました。ケニアと言えば、十二年前の六月、私が三日講習を受講した際、同期の六人の中にケニアから受講しに来た当時二十八歳の若い女性があったことを思い出しまして、非常に懐かしくなつて、そのことをその大柄な黒人女性に説明したんです。すると、それを聞いた向こう側の小柄な女性が、突然、それ、私、私つて顔を見せてくれた。ジンプンさんつていう名前。嘘でしょ！ こんな偶然！ おぢ

ばは奇跡が起こるところなんです。私が  
十二年前の六月は、退職したら天下りの  
再就職をしようと考えてた時期なんです。  
親神様は、そんな私を三日講習に引き寄  
せて、親の思いを聞かせ、反省させ、涙を  
流させるぐらい魂を揺さぶって、私の心を  
切り替えさせようとされた。その時の私の  
涙を、そのジンボさんは目の当たりにし  
てくださるよ。その彼女と、なんと十二年ぶ  
りに再会させるという不思議を親神様お  
見せくださったんです。十二年も経ったら  
緊張感も薄れて、そろそろ慢心してくる  
頃やから、お前、初心忘れるなよという、  
そういう温かいメッセージであるということ  
は、いくら悟りの鈍い私でも容易に悟れま  
す。

私はこの初心を忘れないようにするため  
に、毎日のおつとめでお祈りするときは、  
必ず最後にたんのうの心でひのきしんに努  
めてまいりますと必ず付け加えるようにし

### 【信じて歩む】



ひながたを学び、ひながたに沿って素直  
に喜んで通らせていただくこと。そして、  
親に喜んでいただけるように、素直に神様  
にもたれきって進んだら、必ずいいように  
してくださる。これを信じて疑わない。こ  
れが信仰者の姿です。何があっても成っ  
てくるのが天の理。これで結構なんや、あ  
りがたいと素直に喜んで親のご恩に報いる。  
感謝の汗を流す。

私たちお互いは常に自分の信仰を見つめ  
直して、形だけの信仰になっていないか、  
常に反省しながら通ってまいりますよう。  
たんのうの心でひのきしん。アホになるこ  
と、素直になること。ここから始めてま  
いりましょう。皆さんの勇み心に、少しでも  
エネルギーの補給のお手伝いができました  
ら、幸いに存じます。ご清聴ありがとうございました。



天理教佐山分教会長 島田尚弥先生





# 一月例会案内

日時 一月九日(火) 午前十時  
 場所 旭日大教会  
 内容 教祖祭  
 お願い  
 よろづよ八首  
 支部長様ご挨拶  
 お年玉配布(おふでさき短冊等)  
 新年会

## 一月例会役割

扨者	吉田 せつ	藤井 綾子
賛者	坂本みさ子	岩崎 千鶴
指図方	松田 和代	



## 十二月月次祭炊事当番

係員 東田由起子 井原 美栄

◇9時までにエプロン・三角巾を持参の上お越し下さい。

## 十二月月次祭親子参拝場ひのきしん当番

係員 庄司 恵理 南 ともみ

◇四月より「月次祭託児」ではなく、育成室にて親子で参拝する部屋を「親子参拝場」として設けていますので、ご利用下さい。  
 午前九時十五分より祭典終了までです。

## 女子青年例会案内

日時 12月10日(日) 9時より  
 場所 旭日大教会  
 内容 大教会大掃除

◎月次祭参拝強調日 12月24日(日)

コーヒーションにて、お楽しみスイーツをご用意しておりますので、お気軽にお立ち寄り下さい。

◎1月例会は1月14日(日)です。詳細は来月号でお知らせ致します。





# 苦勞は楽しみの種

苦勞は楽しみの種。どうでもこうでも楽しみ  
働けば、これ種と成る。よう聞き分け。

(おさしづ 明治33年12月22日)



発行日 令和五年十二月五日

発行者 岡本道子

発行所 天理市田井庄町一二八  
天理教婦人会旭日支部